

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

しっかりと生徒と向き合い、信頼に基づいた教育活動を展開することで、生徒の「意欲」を育て「力」をつける学校をめざす。

1. 互いに信頼で結ばれた関係を作り上げ、その中で豊かな人間性が育成される学校をめざす。
2. 学力はもとより人間関係形成能力等も含めた総合的な「人間力」をつけることのできる学校をめざす。
3. 総合選択制の長所を生かして、生徒の多様性に応じた教育活動を展開する。

2 中期的目標

1 学力の向上

(1) 「わかる授業」をめざした授業改革

- ア. 「わかる授業」をめざした「校内授業見学会」を行い、研究協議を行う。
- イ. 生徒による授業評価を活用し授業改善に取り組む。
※学校教育自己診断「授業がわかりやすい」の項(H25年度 56%)を、毎年 5%程度ずつ H28 年度には 70%以上に引き上げる。
※学校教育自己診断「授業に工夫をしている」の項(H25年度 53%)を、毎年 5%程度ずつ H28 年度には 70%以上に引き上げる。

(2) 中学校と連携しての学力保障への取組み

- ア. 地元中学と連絡会議を持ち、連携して学力保障の問題に取り組む。
- イ. 授業見学も含めた中学校との相互交流の機会を深め、中学高校間の接続をスムーズにするとともに、高校の授業改善の資とする。

(3) 「確かな学力」の定着から進学に対応できる学力の育成

- ア. 基礎学力診断テストを年 2 回実施し、学力の定着度を測定するとともに、学力向上プラン策定の資料とする。
- イ. 生徒が進路へ積極的に取り組むモチベーションを高める取組みをおこなう。
- ウ. 「進学準備プログラム」を策定し、体系的な進学指導を行う。
※学力診断テスト 3 年時の上位ランク率(H25年度 26%)を H28 年度には 40%に引き上げる。
※進路先に対する満足度アンケートをおこない、毎年肯定的回答 80%以上を維持する。

2 社会で生きるための諸能力の向上

(1) 「よりよい社会人」の育成を目標とした実践的キャリア教育の取組みを実施する。

- ア. キャリア教育に係る諸能力（人間関係形成能力・情報活用能力・意思決定能力・将来設計能力）の伸長を目標に、さまざまなプログラムを実施する。

(2) よりよい未来をひらくための規範意識の育成

- ア. よりよく社会で生きるために必要な力の育成として、生徒指導の充実を図る。
- イ. 入学当初のガイダンス・クラス開きを充実させ、安心できる居場所づくり・学校生活への定着の促進をおこなう。
※学校教育自己診断の生徒指導関連の項目の平均(H25年度 62%)を、H28 年度には 75%以上に引き上げる。
※学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」の項(H25年度 68%)を、H28 年度には 80%以上に引き上げる。

(3) ユネスコスクールの活動を基盤にした社会参画意識の育成

- ア. 「ESD パスポート」を活用して、生徒の社会貢献活動への参加を促進する。
- イ. 社会貢献活動をとおして自尊感情・自己有用感の向上を図る。

(4) 共生推進教室の取組みを生かし、生徒のコミュニケーション能力等の育成を図る。

- ア. 「共に学び共に育つ」の理念を実現すべく、共生推進教室のシステムを確立する。
- イ. 共生推進の生徒が、他の生徒や地域の人々と交流する機会をより多く設定する。
※H28 年度までに共生推進の生徒・保護者向けのアンケートで満足度 80%を実現する。

(5) 部活動の活性化を図る。

- ア. 中学校部活動との連携を強化する。
- イ. 1 年生を中心に入部運動を推進し、加入率の向上をはかる。
- ウ. 部活動の活躍状況を地域に発信する。
※部活動の加入率（25 年度 57%）を平成 28 年度までに 65%にする。

3 総合選択制の長所を生かした教育活動の展開

(1) エリアの教育内容の充実

- ア. 生徒の諸能力（専門的な知識・自分で考える力・自分を表現する力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力・理解力・物事を調べる力）の向上を目標としてエリア授業の充実を図る。
- イ. エリア発表会を充実させることで、目的意識を持ってエリア授業に臨む姿勢を作るとともに、達成感を与える。
※3 年生対象のアンケートでのエリア教育に対する満足度(H25年度は 73.4%)を、H28 年度までに 80%以上に引き上げる。
※3 年生対象のアンケートで上記諸能力が果たしたかどうかの肯定的回答を H28 年度までに全項目 75%以上をめざす(H25年度は 7 項目中 3 項目)。

(2) 大学・地域との連携

- ア. 授業や課外活動において、大学・短大等との連携を深めることで、専門的知識の深化・興味関心の拡充・進路意識の向上等を図る。
- イ. 地域と連携した実習を積極的に行い、コミュニケーション能力等の育成を図るとともに、「地域に根ざした学校」として地域の認知度を向上させる。
※学校教育自己診断の地域との連携に関する 2 項目の平均(H25年度 46%)を、H28 年度までに 70%以上に引き上げる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 1 1 月実施分]	学校協議会からの意見
【学習指導等】 ○自己診断における「わかりやすさ」の項目での肯定率は 52%、「授業への工夫」の肯定率は 56%で、両者の平均は前年度並みにとどまった。「わかりやすさ」については 4 ポイント低下している。一方、授業アンケートの「わかりやすさ」については 3.1 で前年度と同ポイントであった。学年別では昨年度の 3 年生に比べて今年度の 1 年生が低下したが、今後その原因を分析する必要がある。	第 1 回（平成 26 年 6 月 13 日） ○学校経営計画の重点目標について ・部活動の活性化について、参加率 6 割を超えたことを踏まえて、さらに指導に努めてほしい。 ・学力向上には教室の環境整備や、繰り返し基礎的な学習を続けていくことが大切だと思う。

<p>○「選択科目は自分の進路に役立つものが多い」という設問を新設した。肯定率は63%であったが、3年生は70%に達しており、進路を意識した科目選択がされていると分析できる。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>○学校の生活指導について、「納得できる」に肯定的な生徒は44%、保護者は79%で、昨年度同様評価が大きく乖離している。生徒たちは学校の生徒指導が厳しいと感じている者が多いが、保護者には共感層が多い。また、一般市民からの苦情等はここ数年激減しており、地域住民や地元中学校も本校の生徒指導に対して支持する声が圧倒的に多い。</p> <p>学校としては規律を重んじ、みだしなみ指導、あいさつ運動、自転車安全運転実技指導、地域等ボランティア活動などに今後とも力を入れていきたい。</p> <p>【学校運営等】</p> <p>○「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」という回答が教職員全体で32%にとどまった。ICTを活用する授業の研修会や地元中学校や地域との交流行事に初任者等を派遣する機会を増やすなどして人材育成をはかりたい。</p>	<p>○5期生の進路結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は浪人を避け、早く進路先を決めたがる傾向がある。もっと高い目標にチャレンジしてもいいと思う。 <p>○ユネスコスクールの活動等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESD パスポートを活用した地域ボランティア活動は評価できる。 <p>第2回（平成26年11月28日）</p> <p>○進路マップの実施状況と夢実塾について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢実塾は参加者が少ないとトーンダウンするおそれがある。また、講師の先生に指導を丸投げしないようにしてほしい。 ・生徒にはいろいろな体験をさせることが、自分にあった進学先を選ぶことにつながると思う。大学の偏差値ではない。 <p>第3回（平成27年1月27日）</p> <p>○学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの数値について、年によって上下するが、原因分析とともに、設問の仕方についても改善をしてはどうか。 <p>○学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな取組みを継続して行ってほしい。 ・カリキュラムをマップ化して学習の方向性をビジュアル的にするのはどうだろうか。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上	<p>(1)「わかる授業」をめざした授業改革</p> <p>ア 校内授業見学会の充実を図る</p> <p>イ 生徒による授業アンケートの活用。</p> <p>(2) 中学校との連携</p> <p>ア 地元中学と連絡会議の充実。</p> <p>イ 中学校との相互交流の取組みの充実。</p> <p>(3)「確かな学力」の定着から進学に対応できる学力の育成</p> <p>ア 基礎学力診断テストの実施</p> <p>イ 生徒が進路へ積極的に取り組むモチベーションを高める取組みをおこなう。</p> <p>ウ 「進学準備プログラム」の策定</p>	<p>(1)</p> <p>ア・1・2学期にそれぞれ1回ずつ見学会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単なる見学ではなく、ビデオ機材等を活用するなど工夫を凝らしたものにす。 ・授業見学会後に研究協議を行うなどやりっぱなしの見学会に終わらない工夫をする。 <p>イ・授業アンケートの「わかりやすさ」と「授業への工夫」の項目3.2以上を目標に授業改善に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科でアンケート結果を共有し、改善のための方策を実行する。 ・各教員がアンケートの結果を元に改善目標を設定・実行を行う。 <p>(2)</p> <p>ア・地元中学と連絡会議を持ち、連携して学力保障・中退の問題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元中学で出前進路学活・出前授業を実施する。 <p>イ・学習の接続等を目標として、中学校の授業見学をおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の小学校も含めた研究協議の場を設定し、それぞれの学校の取組み検証の契機とする。 <p>(3)</p> <p>ア・基礎学力診断テストを4月と10月に実施し、前年度比も含めて学力定着度を測定・分析を行い、学校協議会に報告する。</p> <p>イ・希望進路別の見学会・職種別の説明会など、モチベーションを高めるための取組みをおこなう。</p> <p>ウ・進路指導部が「進学準備プログラム」を策定し、体系的な進学指導をおこなう。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業見学会および研究協議を1・2学期にそれぞれ1回ずつ実施する。</p> <p>イ・授業アンケートの「わかりやすさ」と「授業への工夫」の項目の学校平均それぞれ3.2以上(H25年度いずれも3.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の「わかりやすさ」と「授業への工夫」の前年度比でそれぞれ5%増(H25年度「わかりやすさ」56%、「授業への工夫」53%)。 <p>(2)</p> <p>ア・地元5中学の連絡会を年間3回開催。</p> <p>イ・若手教員を中心として、中学校との連携事業・授業見学参加者30名以上(H25年度26名)。</p> <p>(3)</p> <p>ア・基礎学力診断テストの上位ランク率前回比で5%上昇させる。</p> <p>イ・学校教育自己診断の進路ガイダンスの項目の肯定的回答75%以上(H25年度67%)</p> <p>ウ・進路先に対する満足度アンケートにおいて、肯定的回答80%以上。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・5月と11月の2回見学会を実施、そのうち7つの授業でICTを活用した授業展開を行った。次年度はより多くの他校教員が研究協議に参加できる枠組みを作りたい。(○)</p> <p>イ・授業アンケートの「わかりやすさ」の平均は3.09、「授業への工夫」は3.13となり、ほぼ前年度なみであった。次年度は教員間の相互授業見学の機会を増やし、各教科で授業改善の具体案を検討したい。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の「わかりやすさ」の項目での肯定率は52%、「授業への工夫」の肯定率は56%で、両者の平均は前年度なみにとどまった。次年度はアクティブラーニングの研修を企画するなどして授業力の改善をはかりたい。(△) <p>(2)</p> <p>ア・地元5中学校連絡会は年間4回し、より緊密な連携ができた。次年度も連携を維持したい。(○)</p> <p>イ・中学校等の主催する公開授業・研究授業には20人が、本校が主体となって派遣する出前進路ホームルーム・出前授業には35人が参加し昨年度を大きく上回った。次年度は本校で小中学校を巻き込む研究会を企画したい。(◎)</p> <p>(3)</p> <p>ア・基礎学力テストの上位層の人数は、2年次は14人から33人へ、1年次は34人から37人に増加、対前年度比46%増となった。(◎)</p> <p>イ・学校教育自己診断の進路ガイダンスの項目の肯定的回答は67%で前年度なみであった。次年度に向け新たな取組みを検討したい。(△)</p> <p>ウ・進路先に対する満足度アンケートにおける肯定的回答85%であった。早い段階で生徒の進路目標を明確にさせ、計画的に学習する習慣を身につけさせる必要がある。(○)</p>

府立北摂つばさ高等学校

<p>2 社会で生きるための諸能力の向上</p>	<p>(1) キャリア教育の取組みの実施 ア コミュニケーション能力の育成 (2) 規範意識の育成 ア 生徒指導の充実 イ 安心できる居場所づくり・学校生活への定着の促進 (3) ユネスコスクールの活動を基盤にした社会参画意識の育成 ア 「ESD パスポート」の活用 イ 自尊感情・自己有用感の向上</p> <p>(4) 共生推進教室の取組みの充実 ア 共生推進教室のシステムの確立</p> <p>(5) 部活動活性化の取組み イ 入部率の向上 ウ 部活動の情報発信</p>	<p>(1) ア・コミュニケーションスキルを高める多角的な取組みを実施する。 ・「あいさつ運動」を学校全体の取組みとして実施する。</p> <p>(2) ア・生徒指導部主催の教員研修を年2回実施し、教員全体が一致した生徒指導が行えるようにする。 ・「自転車免許講習」を実施し自転車通学のマナーの向上を図る。 ・「自転車免許講習」は警察・行政・民間との幅広い連携のもとに行い、交通安全に対する生徒意識の向上を図る。 イ・1年生の入学直後に共通した「クラス開き」等を行い、学校生活の基本をいち早く身につけさせるとともに、生徒の居場所づくりをおこなう。</p> <p>(3) ア・「ESD パスポート」を活用して、生徒に具体的な目標を持たせ、達成感を味わわせることによって、社会貢献活動への参加を促進する。 イ・東日本大震災の支援活動・募金運動・茨木地域清掃活動等の社会貢献活動をより多く設定し生徒の参加を促進させることで自尊感情・自己有用感の向上を図る。</p> <p>(4) ア・就労にむけた共生推進教室運営のためのシステムを確立する。 イ・共生推進の生徒のクラブ加入の促進。 ・地域等の交流イベントへの参加の促進。</p> <p>(5) イ・体験入部を二日設け、HR・学年集会を通じて入部を強く促す。 ・部員が顧問の就任依頼をし、主体的に運営するよう自覚を促す。 ウ・HPにおいて、すべての部活動についての記事を掲載する</p>	<p>(1) ア・3年生対象のアンケートでのコミュニケーション能力の項目 70%以上(H25年度 65%)。</p> <p>(2) ア・生徒指導部主催の教員研修の実施 ・警察・行政・民間と連携した「自転車免許講習」の実施。 ・講習後のアンケートにおける意識向上率 70%以上(H25年度 62.9%) イ・学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」の項 5%増(H25年度 68%)</p> <p>(3) ア・「ESD パスポート」のユネスコ協会連盟からの表彰認定30名以上 イ・学校教育自己診断の社会貢献の項目の肯定的回答 60%以上(H25年度 55%)</p> <p>(4) ア・共生推進教室に係るシステムの構築状況 イ・共生推進教室の生徒の満足度 80%</p> <p>(5) イ・部活動の入部率(平成 25年度 57%)を 60%にする</p>	<p>(1) ア・3年生対象のアンケートでのコミュニケーション能力の項目の肯定的回答は 70%で目標に達した。次年度はさらに授業や総合的な学習、学校行事を通じて発表する機会を増やし表現能力を高めたい。(○)</p> <p>(2) ア・生徒指導にかかわる研修2回に加え、支援教育にかかわる研修を2回実施し、教員の意思統一と生徒理解を進めることができた。(○) ・茨木市、茨木警察、ドライビングスクールと連携して「自転車免許講習」の実技講習を1年生で実施、当日欠席者12名を除く96%の生徒が実技に合格した。今回の欠席者は来年度の講習に参加させ、生徒全員の講習参加を達成させたい。(○) イ・学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」の項目の肯定率は67%にとどまった。原因を分析し、数値の向上につとめたい。(△)</p> <p>(3) ア・「ESD パスポート」のユネスコ協会から「ボランティア活動認定証」を受けた生徒(30ボランティア以上)は32名に達した。(○) イ・学校教育自己診断の社会貢献の項目の肯定的回答は67%に達した。ボランティア活動への参加者数、募金活動にのべ483人が参加するなど増加している。次年度は幅広い生徒の参加を呼び掛けたい。(○)</p> <p>(4) ア・実習先として新たに4事業所を開拓できた。時間割、成績評価方法は確立しつつある。次年度は3年生全員の進路先を確保できるようにしたい。(○) イ・共生推進教室の1年生全員がクラブに加入し、現在も継続中。地域イベントや募金活動にも積極的に参加しており、満足度調査では83%が肯定的な回答を寄せた。(○)</p> <p>(5) イ・部活動の入部率は60.7%と過去最高を記録した。次年度も体験入部を奨励し、入部率向上に取り組みたい。(○)</p>
<p>3 総合選択制の長所を生かした教育活動の展開</p>	<p>(1) エリアの教育内容の充実 ア 生徒につけたい諸能力のうち、アンケート回答が60%台であった「コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力」に重点を置き、70%に引き上げる。 イ エリア発表会の充実。 (2) 大学・地域との連携 ア 授業や課外活動において、大学・短大等との連携を深める。 イ 地域と連携した実習を積極的に行う。</p>	<p>(1) ア・エリア授業見学会を行う。 ・「コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力」の育成を目標としたエリア授業の組み立てを行う。 ・1年生に対して、エリアガイダンスをきちんと行い、目的意識を持ってエリア選択ができるようにする。 イ・市民ホールでエリア発表会を行う。 大きな舞台に立ち達成感を得ることで、生徒の自己肯定感の育成を図る。</p> <p>(2) ア・大学・短大との連携による授業を行うことで、専門的知識を深めるとともに、進路意識を向上させる。 イ・地域と連携した実習を積極的に行い、コミュニケーション能力等の育成を図るとともに、「地域に根ざした学校」として地域の認知度を向上させる。</p>	<p>(1) ・エリアガイダンス・発表会の実施。 ・エリア授業アンケートの満足度5%以上引き上げ(H25年度 73.4%) ・学校教育自己診断の科目選択ガイダンスの関する項目の肯定的回答を70%以上(H25年度 60%) ・3年生対象のアンケートで「コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力が果たしたかどうか」の項目への肯定的回答を70%以上にする(H25年度 コミュニケーション能力 67.3%・プレゼンテーション能力 65.9%)。</p> <p>(2) ・学校教育自己診断「他の学校にない特色がある」の項目 70%以上(H25年度 65%)。 ・学校教育自己診断「地域へ出かける機会がある」の項目 60%以上(H25年度 51%)。</p>	<p>(1) ・つばさコレクション(エリア授業発表会)を市民会館で開催、大手新聞にも掲載された。来年度は会場をかえてより大規模なイベントとしたい。(○) ・エリア授業アンケートの満足度は72.8%にとどまり、ほぼ前年度なみであった。来年度はエリア授業で実習授業や外部人材を多用し満足度を高めたい。(△) ・学校教育自己診断の科目選択ガイダンスの関する項目の肯定的回答は65%にとどまった。次年度はエリアガイダンスの形態を工夫したい。(△) ・3年生対象のアンケートで「コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力が果たしたかどうか」の項目への肯定的回答は、コミュニケーション能力が69.8%、プレゼンテーション能力が62.8%で目標に達しなかった。次年度は授業の中でプレゼンテーション・発表を行う機会を増やして能力の育成をはかりたい。(△)</p> <p>(2) ・学校教育自己診断の「他の学校にない特色がある」の項目の肯定的回答の割合は70.7%で目標に到達した。次年度も引き続き普通科総合選択制の長所を生かして特色を出したい。(○) ・学校教育自己診断の「地域へ出かける機会がある」の項目の肯定的回答は46.2%にとどまった。次年度は1年生から外へ出る機会を増やしたい。(△)</p>